

令和4年度（第4回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年10月18日（火） 14時00分～16時20分
 - 2 開催場所 加古川総合文化センター美術創作室
 - 3 出席委員 後藤昌委員、坂田委員、田上委員、高瀬委員、後藤強委員、川上委員、菅原委員、徳田委員（8名）
 - 4 欠席委員 長谷中委員、田中委員、和田委員、山尾委員、善積委員
 - 5 出席職員 小南教育長、桐山教育指導部長、杉本教育指導部次長、福島教育指導部参事、松尾教育指導部参事、今津教育指導部参事、梅野社会教育課長、高橋加古川公民館長、河村文化財調査研究センター所長、宮本文化財調査研究センター副所長、社会教育課（畑副課長、川向地域家庭教育係長、今井主事）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

- 1 文化財の保存と活用及び今後の方策について
（文化財調査研究センターより説明）

委員

文化財調査研究センターの人員はどのくらいか。また、文化財の修復作業に伴う人員や発掘作業に関わる人員はどのくらいか。

文化財調査研究センター

文化財調査研究センターは、合計9人の職員が在籍しており、埋蔵文化財に関わる職員として学芸員4人と会計年度任用職員（学芸員）1人の5人となっている。そのうち、主に発掘調査を行っている職員が3人となっている。文化財の修復作業については、国からの補助金を受けて実施しており、会計年度任用職員が週3程度で4～5人が勤務している。発掘調査については大規模になると業務委託を行うが、小規模な試掘調査の場合は、職員2名、作業員2名の4人ほどで作業を行っている。

委員

今回見学を行い、博物館に並んでいるものよりはるかに多い土器などが、倉庫に眠っていることを知った。どこかで展示するなどすれば、歴史の勉強にもなりいいと思う。このような資料は、小中学生の夏休みの課題の勉強にいいと思うし、学芸員に説明いただきながら勉強することができたらいいと思う。これらを何とか活用できれば。パズルのようにくっつけて行う復元作業を見たが、とても大変な仕事だと感じた。場所をどこにするかは課題であるが、学校の統廃合でできたスペースなどを活用して、博物館などを配置し、加古川で発掘されたものをもっとみんなに知ってもらえたらと思う。

委員

埴輪などの展示物を見るだけでは、なかなか身近に感じにくい。埴輪を作る過程やどのような思いが込められて作られているのかを併せて学習できると、より身近に感じ、歴史の見方も変わってくると思う。

文化財調査研究センター

加古川市には、本日見学いただいたように常設の展示施設があり、こちらで見たり聞い

たりすることができるようになっている。興味があれば施設に企画展などを要望するのも一つだと思う。なお、単発のイベントとしては夏休みなどに少人数のものを行っている。

委員

このような宝物を活かせるような講座や展覧会を、総合文化センターと連携しながら実施いただきたい。

委員

PRというところで、どれぐらいの小学生がこちらの博物館に来られているのか。
文化財調査研究センター

博物館の入場者数は把握していないが、小学4年生から6年生には文化財ニュースを配布し、家族で見てもらえるように案内している。

委員

平岡小学校に勤務している際、小学4年生が昔の暮らしを学ぶときにこちらの博物館に来ていたが、6年生が学習するときは考古博物館に行っている。今日、こちらの博物館を見学して、内容も充実しており、6年生の学習にもふさわしいと感じた。ふるさと意識の醸成という点でいうと、自分たちの住んでいるところの昔の様子が手に取るようにわかるということが大切である。徒歩圏でないと気軽に来ることは難しいかもしれないが、校外学習のひとつとして立ち寄ることができれば広がると思う。コロナにより考古博物館はいけなくなり、現在勤務している尾上小学校では、6年生の学習で鶴林寺に見学に行った。校区内であるため、馴染みのある施設であるが、実際にお寺の中に入り、ガイドいただきながら学習する機会はあまりないので、企画して良かったと感じている。どのようなものがあるかを知ることができれば、プログラムにも組み込みやすいと思う。

委員

こういうところがあると知らなかった。公民館の高齢者大学のカリキュラムに入れてもよいのではないかと感じた。大人もたくさん訪れることができるように、惹きつけるチラシを作成するなど、PRして行ってほしい。

委員

久しぶりに見学したが、すごい展示物があることを改めて認識した。入場者数は多い数字ではないと推察するので、見てもらうことで関心を持ってもらえる工夫をしていただきたい。

委員

今回の見学を通して、加古川市にまだ知らない宝物がたくさんあることを知った。PRが大切だと思うので、総合文化センターと連携しながら、行ってみたいと思える場所づくりをしていただきたい。また、公民館の講座の中でも取り入れていただければと思う。文化財ニュースについて、中学生には見にくい構成となっているので、明るく見たくなるような工夫をしていただきたい。HPの充実やゴーグルをつけて見学できるVR設備など、他にはない博物館の取り組みができればよいと思う。

委員

私が、子どもと図書館を訪れた際には、博物館にも立ち寄るようにしている。繰り返し親子で考えることが勉強になると思う。大人が子供に伝えていくことが大切であるため、例えば中央図書館のおはなし会で、博物館の紹介をするなどしてもよいのではないかとと思う。

2 公民館の利用促進に向けた取組について（まとめ）

（社会教育課より説明）

委員

コロナの影響もあり、ここ2年の利用者数はこれまでと比較はできないが、思ったより減少が進んでいる館もあるように思う。時代の流れもあり難しい課題となっている。引き続き検討していきたい。

委員

子どもの活動と関連付けることも必要であると思う。また、高齢者大学生は減少しているものの、地域で動いているOBの方もいらっしゃる。一度経験された方は楽しみを覚えているので、どうやって広げていくかが大切ではないかと思う。また、昔と比べて65歳まで皆さん働いておられており、健康志向があり外やジムなどでスポーツに取り組む人もいます。そういったことが近くでできれば良いと思うので、公民館などで企画いただければと思う。

（報告事項）

（1）公民館の使用許可基準の緩和について（社会教育課より報告）

（2）公民館アンケートの実施について（社会教育課より報告）

委員

アンケートの内容について、各委員でご意見があれば、事務局に連絡いただきたい。講座の内容を問う項目が主となっているので、こんな事したら公民館にもっと人が来るのではないかと、一般の人が答えやすいような項目があっても良いのではないかと思う。

（3）近畿地区社会教育研究大会[奈良大会]（9/2）の参加報告について

（坂田委員より報告）

（4）社会教育委員協議会の今後の予定について（社会教育課より報告）

○ 閉会 16時20分

副委員長あいさつ

以上